

子どもの気持の表現にふれるとき (2)

——水遊びを通して——

唐 木 久 枝

水がなくても、だいじょうぶ

そして、冬休み、Bは、頭に三針縫うというけがをしてしまいました。三学期がはじまりましたが、けがのため、水遊びはやらないほうがよいとのこと。いろいろ考えました。確かにBは、水遊びが大好きです。でも二期の後半の様子から、保育者が、しっかり受けとめれば、水なしでも充分に過ごすことができるように思えました。また、庭の外水道は、他の先生方にも協力してもら

い、ノブをはずして使用しないで様子を見るということで、Bに登園してもらいました。登園初日、Bには理解できなかったでしょうが、とにかく、水遊びのできない理由をしっかりと説明してみました。内容は理解できなくても、気持だけでも伝えたいと思ったからです。私達の心配をよそに、Bは、水がなくても、しっかりと他の遊びをして過ごすことができたのです。

記録より

。登園すると、しばらく室内のおもちゃ（ビズィーボックスなど）で遊ぶ。そして、はだかになり庭へとび出

す。すぐにブランコへ行く。私が大きくこごと、声をたてて笑う。ブランコからおりると、庭を走りまわる、私が追いかけると、声をたてて笑う。水道の所へ私をひっぱってゆき、水を出すよう要求する。水を出せないことを伝えると、私の手をひいてブランコへ行く。(1月17日)

二学期後半、それほど、執着しているようには見えませんでした。やはり、Bの園での生活の中心であり、Bが、何かを表わす第一の手がかりとしての水が出ないことを、Bはどのように受けとめたのでしょうか。あまりおとなに対して、強く要求を出さないBだけに、気持ちの内向しなければよいが……、との心配も、少しはありました。しかし、逆に、このチャンスにひとにむかいはじめた気持ちをしっかり育ててみたい、との期待もあったのです。

水を使わずに、一週間が過ぎました。その間、Bは、何度か、水を出すよう私を水場にひっぱってゆきました

が、出ないことがわかった、泣いたり、おこったりということはなく、すぐに他の遊びに私の手をひいてゆきました。

記録より

1月18日

。登園すると、入室しないで、すぐに庭で遊びはじめる。砂場の藤棚につつてある綱のブランコにのる。次に、二人用のブランコにのる。その後、室のロッカーの所へ行つて、はだかになり、庭へとび出す。庭を声を出して走りまわった後、また、ブランコへ行く。

。お弁当は、昼食時に、庭へ持って出て食べる。お弁当を食べる時は、服を着る。

。午後、室内の子ども用すべり台を庭に持ち出すように私に要求し、庭で砂をすべらせて遊ぶ。

。自分から、庭の自動車にのり、私に押させる。

。トラクターのおもちゃを手で押して走らせる。

1月21日

。登園後、すぐ室のロッカーの所へきて、はだかにな

る。庭にとび出し、声をたてて走りまわる。その後、私の手をひき、砂場のブランコにのり、私に押すよう要求する。

。お弁当は、庭のいつもの所で食べる。

。午後、庭の見わたせる二階のベランダへ行き、私にベッタリと抱っこをしてあまえてくる。

1月22日

。登園して入室。ロッカーの所へくるが、すぐには服を脱がず、しばし、あたりをキョロキョロする。そして、服を脱ぎ出すが、その途中、虫の本をみつめ、そのまま、本をみる。見終えると、はだかになって庭へとび出し、声をあげて走りまわる。その後、私の手をひいて、ブランコへ。私ものると、ひざの上にすわる。

。お弁当は、庭で食べる。

。砂場で、砂をけちらしたり、ボールをけって遊ぶ。

1月24日

。ロッカーの所まできて、ちょっとの間、服をきたまま、いろいろなおもちゃ（ビズィボックス・文字あそ

びなど）で遊ぶ。その後、はだかになった庭へとび出す。庭を声を出して走りまわった後、私の手をひきブランコへ。私のひざにすわり、ゆったり、のんびりすごす。

。抱っこの要求の多い一日。

この一週間の遊びの中で、Bが、水遊びをしていた時と、同じような感じをうける遊びがあります。それは、はだかになって、庭へとび出し、庭中を声を出して走りまわることです。時間としては、わずか2〜3分ですが、Bの内部にたまったエネルギーを、まとめて表出しているように思われるのです。そして、Bは、庭を走りまわった後、「さあ、いっしょに遊ぼう」という感じで、私の手をひきにぎめます。この時の感じは、二学期に、水遊びを終えて、私の所にやってきた時と、似ています。また砂場で、かわいた砂をけちらす遊びは、水たまりを、足でパチャパチャやっているのと、同じイメージをうけます。

これらのことから、Bが、それまで、水にむけて表わ

していたもの、水にぶつけていたものを、水がなくなっても、他の方法で、表わしているのを感じました。そして、それは、Bにとっては、水が、一番表わしやすいものであり、水を使って表わしてゆくうちに、それ以外の手段でも、表わせるようになったのではないでしょう

か。

そして、もっとも変わったことは、気持を直接ひとにむけてくれることが多くなったことです。二学期までは、傍観者であった私から、いつも、いっしょにいる私になったことです。それまでは、いっしょにいようとしても、とぎれとぎれだったBとの関係が、かなり持続的なものになってきたことです。

朝から、何度も抱っこを求め、しっかりと私の手をひいてすごします。遊びも、ブランコや、庭のいろいろな乗り物にのって、それを押してほしいという要求が多く、また、ひざの上でのんびりすごす時間もふえていきます。

そして、記録からもわかるように、それまでは、毎

日、自分で決めたコース通りに動いている傾向が強かったのですが、少しずつ、そのパターンがくずれ、自由に動くことがみられるようになりました。私には、以前のBは、まわりをみるゆとりもなく、一心に自分のやるべきことにむかっていたように思えました。自分から、強い要求は出さなければ自分決めてやっていることを、とめられたりすることには、強い抵抗を示していたのです。それが、少しずつ、まわりに目をむける余裕ができ、緊張もほぐれていったようです。そして、少しずつ、他からの働きかけ、さそいかけ、受け入れるようになったのです。

皆といっしょに、いただきます

二月になりました。それまでは、さそっても、自分のお弁当をもって、庭へとび出していたBが、室でお弁当を食べるようになりました。

記録より

。お弁当にしようときそうと室にやってくる、お弁当を持って、ちょっと室から出ようとするが、さそうと席につき、室で食べる。(2月7日)

九月の早弁をしていた時から、一月まで、Bは、どんな寒い日でも、庭の決まった所でお弁当を食べていました。なぜそうしていたのか、そのことにどんな意味があったのかは、私にはわかりません。しかし、このような時子どもの行為をとめずに、保育者が、じっくりつきあうことが、子どもを安心させ、子どもの気持をこちらにむけさせてくれるのではないのでしょうか。Bの場合も、まわりのことに目をむけ、気持にゆとりがでてくるに従って「お室でいっしょに食べましょう。」というささいかけに、あまり抵抗なく、応じてくれるようになったのでしよう。といっても、きちんとすわって食べているわけではなく、けっこう遊びながら、楽しんで食べていました。

はだかん坊は最高

水遊びをやらなくなってからも、Bは、はだかで過ごす時間の方が長かったのです。でも、Bがはだかになるのは、園にいるときだけだったのです。家では、お風呂からあがったときでも、すぐに自分から、服をきようとし、海などへ行つて、はだかにさせようとしても、とても、いやがったとのことです。ですから園で、はだかで過ごすことには、Bなりの意味があったのでしよう。

Bは、はだかになると、パーッと庭へとび出します。そして、庭中を、歓声をあげて走りまわります。この時のBをみてみると、なにもかも脱ぎすてて、自由な自分を思う存分経験しているように感じます。

どちらかというと、自分の動きを、自分でパターン化しやすいBにとって、はだかになることは、その自分のパターンからぬけ出すための一つの手段であったようにも思えます。ただ、Bにとって、行動をパターン化する

ことは、社会やおとなからの働きかけに思うように答えられず、ふりまわされがちな自分を守るための行為であったようにもみえました。ですから、それを、少しでも崩すことは、Bにとっては、とてもたいへんなことだったでしょう。

帰りたくないな

三学期も終わりに近づくと、お帰りの様子にも、さらに、余裕ができました。お帰りの時間になって、おむかえのお母さんの姿をみても、もつと遊びたい時には、遊び続けることもありました。

このように、Bも、私も、夢中にすごしているうちに、何かひと山越えたようなこの一年も、終わってしまいました。

幼稚園二年目のBは、さらに、気持を外にむけて表わ

すようになりました。時には、私達が、びっくりするほど、しっかりと表わしていましたが、時には、うっかりすると、見逃してしまうような小さなサインで表わしていることもありました。

新しい室、新しいお友達との新学期です。Bには、室の変わったことは、はじめ、少し抵抗があったようです。でも、すぐに、慣れてくれました。

この年のBは、もう私と一対一の関係だけでなく、クラス他の先生や、お友達を意識しての生活になりました。私以外にも、お気に入りの先生をみつけては、手をひいて、楽しくすごすこともありました。また、他の子どもにも関心を示し、ちょっとさわりにいたり、抱きついてみたりして楽しんでいました。

そして、ずい分積極的に、自分の気持を行動に出すようにもなりました。自分のもっていたおもちゃをお友達にとられると、そのお友達をたたいたりもしました。また、私が他の子どもと遊んでいても、必要な時には、手

をひきにきてくれることもしばしばでした。

ただ、あまり、うまく気持を表わせなかったり、私が手をひかれても、なかなか応じられなかったりすると、Bは、パーッと水遊びに行つて水に気持をぶつけていたり、あるいは、昼食の時間でもないのに、お弁当をもち出したりして、私達にサインを送ってきました。

そして、この一年、とても変わったことは、お母さんとの関係がとってもスムーズになったことです。自分から、お母さんのひざに、抱かれにゆくようになったのです。お母さんもBのために、一生懸命でした。でも、時々、一生懸命すぎて、少しずつ、いろいろなことができないようになっていくBに、あれもやらせたい、これもやらせたいと、先まわりしがちになります。そんな時は、ちゃんとBが、お母さんのやらせようとしたことに対して、おこったり、おむかえのお母さんに対して、表情を固くするなどして、表わしてくれるのですぐに説明して氣をつけてもらいました。

おわりに

現在Bは、愛育養護学校の小学部一年生です。登園すると、下駄箱で、靴をはきかえ、入室すると、きかえます。だれが教えたということもないのに、靴下を、靴の中に入れて、ロッカーの下におくのです。あたたかな時にはやっていた水遊びも、寒い今は、ほとんどやらず、はだかですぐすことも、ほとんどなくなってしまいました。水遊びをやっていた時期も、水遊びはBの好きな遊びの一つという感じで、時間的にも、5分から20分位やると、自分からやめて、タオルで体をふき、室のロッカーの所へ行つて、服をきるのです。ですから、水遊び以外で、はだかですぐすことも、なくなっていました。

お弁当も、自分で机の上に用意し、おちついてすわって食べ、自分で、後片づけもするのです。

このように、具体的に、いろいろなことが目にみえて変化してきました。しかし、この変化は、Bの心の成

長、氣持の広がり付随して表われた、ごくごく一部のことにすぎないのです。

水をやらなくなったのも、はだかにならなくなったのも、Bが、それを、氣持を表現する一つの手段としていたからで、心の成長とともに、氣持を直接的に表わすようになったBは、おのずから、必要なくなったのでしよう。

私が、子どもと過ごす時、その子どもが夢中になつてやつていて、その子なりに、何かを表わしているようにみえるのに、それが何であるかわからないことがよくあります。そして、それが何であるかを考え、時には悩めます。でも、最近、それが何であるかを、その時に、無理にわかろうとする必要はないのではないかと思うことがあります。子どもがそのことをやっていること自体に、その子どもにとっての大きな意味があるのではないのでしょうか。ですから、私は考えすぎたり、悩んだりせず、それを、ゆつたりと見守ることができたらよいと思うのです。

服を着ていても、自由に、のびのびと、明るい表情で遊んでいるBを見ると、結局のところ、水遊びや、はだかに、とらわれていたのは、私であり、周囲のおとなであつたようです。

ある日、ひとりの先生に「Bちゃんは、水を通して成長したのね。」と言われました。ほんとうに、その通りですね。

(愛育養護学校)

